

緑のセンターだより

No.218

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <https://www.asahikawa-park.or.jp>

発行:令和8年2月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日午前9時から、お電話または直接の受付をいたします)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

とき 令和8年2月7日(土) 午後1時00分～3時00分 定員40名 参加費 無料

講師 ふじくらすも果樹園 増茂 聡さん

※講座の受付は、1月20日(火) 午前9時～

「3月にタイリントキソウを楽しむ講習会」

とき 令和8年2月8日(日) 午前10時00分～12時00分 定員20名 参加費500円

講師 緑のセンター相談員

※講座の受付は、1月20日(火) 午前9時～

「家庭菜園の土づくり 基礎講座」

とき 令和8年2月15日(日) 午後1時00分～3時00分 定員20名 参加費 無料

講師 緑のセンター相談員

※講座の受付は、1月20日(火) 午前9時～

「神楽岡公園 冬の自然観察会」～冬の園内を探索しよう～

とき 令和8年2月23日(月) 午前10時00分～12時00分 定員15名 参加費 無料

講師 森ん歩の会 阿久津 弘明さん、佐藤 まゆみさん

※講座の受付は、1月20日(火) 午前9時～

緑のセンターでは、電話等での園芸相談(植物の管理方法等)を受けています。



森ん歩の会 神楽岡公園で森林ウォーキングをしませんか?

その日の森の様子についてガイドがお話をします。

開催日 毎月 第1日曜日 午前9時～(当日の動植物のお話) 9時30～11時30分頃まで園内散策

集合場所 神楽岡公園 緑のセンター学習室 参加費 200円(傷害保険代等)

主催 森ん歩の会、共催 公益財団法人 旭川市公園緑地協会



展示会

「神楽岡公園 自然写真展」令和8年1月14日(水)～2月23日(月) 作品提供:阿久津 弘明さん

【休館日のお知らせ】

11月～3月は、毎週月曜日が休館日です。(月曜日祝日の場合は翌日)

〈我が家の庭づくり〉 果樹・庭木類の剪定と防除

《樹木が休眠しているこの時期は樹液の流出がないので木へのダメージが少なく済む適期》

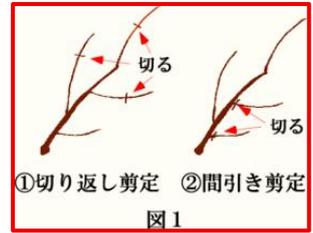
1. 剪定をする理由

・木の大きさを制限する。・枝や葉の混雑を制限する。・風通しや日当たりを良くして、病害中の発生を抑える。・果樹は毎年良い実を平均的に成らせる。

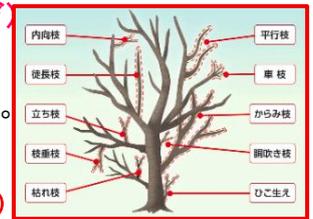
2. 剪定方法と忌み枝について

・切り返し剪定～枝の途中で切り返すことで樹勢回復や骨格作りをする方法。
・間引き剪定～枝の基部から切り落とし、葉に日光が当たる様にする方法。

* 忌み枝とは、木の形を乱す不要な枝のことで(ひこばえ・下がり枝・絡み枝・門枝・車枝・ふところ枝・内向枝・逆行枝・立枝・徒長枝・枯れ枝・胴吹き枝など)



剪定方法 (2通り)



忌み枝 (いらない枝)

3. 果樹の剪定技術

・花芽を沢山つけるには・美味しい実を収穫するには？を求めての剪定になる。
・果樹の剪定にあたっては、枝の呼び名を理解することから始まるので挫折することが多い。(主幹・主枝・亜主枝・側枝・発育枝・徒長枝・結果母枝・結果枝)

* 具体的な果樹の剪定については、緑のセンターに随時、ご相談ください。

4. 剪定師の保護・病害虫防除

・剪定後の切口は放置せず殺菌剤(トップジン M ペースト)を塗布することで、雨水や病原菌の侵入を防いで傷口の治りを早め、枯れ込み予防になります。
・剪定終了後は、石灰硫黄合剤(7～10倍液)を木全体にムラなくたっぷりと散布することで、シーズン中の病害虫の発生を減らしてくれる効果があります。



石灰硫黄合剤散布

* 石灰硫黄合剤の入手に当っては10リットルタンクしかないので要注意！

ブドウ晩腐れ (おそぐされ) 病 (令和7年に問い合わせが多い病害)

1 生態と防除

病原菌は結果母枝や巻きヒゲなどに菌糸の状態越冬します。分生胞子の形成は6月～7月の降雨時期が最も多く、胞子は降雨によって飛散し、新梢や果房に感染して発病を助長します。

2 防除法 (耕種的防除)

本病は薬剤散布だけで対処する事が困難です。越冬病原菌の密度を低下させるためには前年の巻きヒゲの残りや前年果梗の切り残り部分などの除去。更に雨よけ栽培や果実への早めの袋かけ、笠かけが有効です。加えて、こまめな新梢管理、二番成りの除去、排水対策など総合的な対策を講じることが望まれます。

3 薬剤防除 (科学的防除)

6月上旬～8月上旬の生育期に、キャプタン水和剤(商品名:オーソサイド水和剤80)やイミノクタジン酢酸塩・ポリオキシン複合体(商品名:ポリベリン水和剤)などの薬剤を散布します。



〈 季節の鉢花を楽しむ〉

スパティフィラム



早春の神楽岡公園を彩る野草の一つに「水芭蕉」があります。その姿を見るのはまだ2か月先ですが、一見してすぐ判る特徴に白い花びらのような仏炎苞(ぶつえんほう)と呼ぶ「葉が変形したもの」が目に見えます。

この仏炎苞を厳寒期に先取りして室内で楽しむことができます。スパティフィラムにもこの仏炎苞があり、適度な大きさ、艶のある深緑の葉(斑入りもある)も魅力的。空気清浄効果もあつて室内環境改善にも貢献してくれる人気の観葉植物の一つです。

栽培管理のポイント

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------|----------------------|----|----|---------|----|----|----------------|----|----|-------|-----|-----|
| 生育状況 | 最低12度以上で周年開花 | | | | | | | | | | | |
| 置き場所 | 南側の窓辺 | | | 半日陰(戸外) | | | レースのカーテン越し(室内) | | | 南側の窓辺 | | |
| 水やり | 控えめ | | | 乾いたら十分に | | | | | | 控えめ | | |
| 施肥 | 薄い液肥(10日~2週間に1回) 置き肥 | | | | | | | | | | | |

自生地は熱帯雨林(熱帯アメリカ)の木の下、木漏れ日があたる環境を好みます。耐寒性は弱いので室内管理になりますが、置き場所は比較的明るく風通しがあるところ。また、通年 20℃前後の生育温度を確保できる環境であれば周年開花するので、冬期間も 2,000 倍程度の薄い液肥を与えます。夏季間は緩効性肥料を

置き肥すると良いでしょう。水やりは、春・夏・秋は土の表面が乾き始めたらたっぷり(受け皿の水は捨てる)、冬は週に1~2回が目安ですが、暖房で湿度が低下するようであれば朝・晩の「葉水・霧吹き」が効果的です。

〇葉が枯れる・しおれる要因・・・①根詰まり(対策:生育適温であれば時期を選ばず植え替える。基本的には1~2年毎に植え替え・株分けが必要。用土は赤玉土小粒7、腐葉土3の配合土など)。②水切れ(根が健全な場合は水やり頻度を少し増す)。③直接、温風などがあたる場所(置き場所として不適切)。

〇葉が黒くなる要因・・・①10℃以下にさらされる。②根腐れ(土の表面が乾いてきてから十分、給水する)。

〇花が咲かない要因・・・①日照不足。②肥料切れ。③変色した仏炎苞の放置。

〈 展示室の植物 (124)〉

アンズリウム

学名: Anthurium サトイモ科 ベニウチワ属

原産地は、赤道付近の熱帯アメリカから西インド諸島にかけて。上項のスパティフィラム(ササウチワ属)と同様に耐寒性はあまりないので、緑のセンターでは温室管理で一年中、色鮮やかな仏炎苞を観賞いただいています。

苞は「葉」で、花はひも状の部分(肉穂花序)に多数つき、小さくて目立ちません。光沢のある葉が美しく、ハワイではバレンタインデーに贈る花として人気があるそうです。花言葉は「恋にもだえる心」。一際目立つ仏炎苞を活かして、室内管理の鉢物や切り花、観葉植物としても楽しむことができます。

色も、赤・ピンク・白・黄・オレンジなど多彩ですが、色によって花言葉が違わしいので、時と場合によっては確認されたほうが良いかもしれません。



園芸用語の解説

園芸でよく使われる専門用語や名称について連載しています。初心者の方々にもわかりやすく解説しています。表記は順不同です。

【温室植物】おんしつしょくぶつ

温室内で育てられる植物のことです。熱帯、亜熱帯原産の植物は、冬の寒さに弱いので、温室に入れて保温や加温が必要になります。

【花芽と葉芽】はなめとはめ

花の「もと」が入っている芽のことを花芽といいます。大きく丸みを帯びているのが特徴です。

葉芽は葉や枝（茎）の「もと」が入っている芽のことで花芽に比べて小さめで細い形をしています。



【原産地】げんさんち

植物が自然の状態でもともと生育していた場所のことをいいます。

【実生】みしょう

タネから植物を育てることをいいます。その結果、得られる苗が「実生苗」です。実生苗や実生株を単に「実生」と呼ぶこともあります。

【殺虫剤・殺菌剤】さっちゅうざい・さっきんざい

植物に悪影響を与える害虫を駆除するために使う薬剤のことを殺虫剤といいます。植物に発生するいろいろな病気を予防したり、治療したりする薬剤を殺菌剤といいます。

【点まき】てんまき

1か所に数粒ずつタネをまく方法です。比較的大きなタネをまくときに適しています。



【ばらまき】ばらまき

タネまきのとき、適当な間隔でタネをばらまくこと。

【すじまき】すじまき

すじ状にタネをまくこと。

【とりまき】

みのったタネをとってからすぐに、そのタネをまくこと。とりまきは発芽がよくなります。

【直まき】じかまき

タネを花壇や菜園などに直接まく方法です。苗のこみ具合を見て、順次間引きをしながら育てます。移植を嫌う植物に用いられます。

【素焼き鉢】すやきばち

陶磁器を本焼きにする前に、^{うわぐすり}釉薬をかけずに低い温度で軽く焼き固めた植木鉢のことです。多孔質なので、壁面からも水や空気の出入りがあります。通気性に優れているので洋ラン類などの植物を育てるのに適しています。

【駄温鉢】だおんばち

鉢の縁に^{うわぐすり}釉薬をかけ、約1000℃で焼いたもの。素焼き鉢より丈夫ですが、排水性はやや劣ります。

【置き肥】おきひ

肥料を土の中に混ぜ込まないで、土の上に置く肥料の施肥方法です。土中に混入する場合に比べて、少しずつしか溶け出さないので、薄い成分の肥料を長期間効かせることができます。



【遅霜】おそじも

最後に霜が降りた日が、平年値より遅く降りる霜のことをいいます。旭川地方では6月上旬に降りることもあります。寒さに弱い植物を育てるときは、春先、天気予報に注意して防寒対策に心がけましょう。

【株元】かぶもと

植物が土に触れている部分をいいます。根元のことをいいます。

(参考・引用文献：NHK趣味の園芸 園芸入門ほか)